A 19 ラオス国カムワン県マラリア流行地での殺虫剤塗布蚊帳使用後のマラリア感染率と蚊の調査結果

○當間孝子¹、宮城一郎¹、才田進¹、都築中²、岡澤孝雄³、小林潤⁴、Hongkham Keomanila⁵、Samlane Phompida⁵ (¹琉球大学・医・保健、²JOCV・マラリア風土病対策・ラオス、³金沢大学・留学生センター、⁴国立国際医療センター、⁵ラオス国立マラリア・寄生虫・昆虫学センター)

Survey on malaria and *Anopheles* mosquitoes after distribution of insecticide impregnated net in malaria endemic area of Khammouane Province, Lao PDR

○Takako Toma, Ichiro Miyagi, Susumu Saita, Ataru Tsuzuki, Takao Okazawa, Jun Kobayashi, Hongkham Keomanila, Samlane Phompida

私達は 1999 年 8－9 月、と 12 月にラオス国カムワン県のマラリア流行地、ボラバ郡の 3 村で調査を行い、ハマダラカの種類や数、人吸血嗜好性の程度、活動時間、マラリア原虫検出結果について報告してきた。ラオスではマラリア対策の一環として殺虫剤塗布蚊帳の使用を奨励している。調査地でも、1999 年 12 月の調査後、殺虫剤塗布蚊帳の配布が JICA の無償援助が開始された。殺虫剤塗布の蚊帳の効果を知るために、2000 年 8 月にこれらの 3 村で住民のマラリア原虫の感染率、ハマダラカの調査を行った。その結果、マラリア感染率は塗布蚊帳を配布した Napoung で著しく低下した。*An. dirus* 数や全採集個体数に対する割合は、前年（蚊帳配布前）と比較して Napoung 村で著しく減少し、他の 2 村（普通の蚊帳を配布、蚊帳の配布なし）では前年の値と著しい差は見られなかった。

A 20 加齢による蚊刺反応の変化

○岡 恵子（日通東京病院皮膚科）、大滝倫子（九段坂病院皮膚科）

The changes in human mosquito bite reaction in relation to growth

Keiko Oka, Noriko Ohtaki

蚊刺反応は刺刺回数によって変化する。始めは無反応(type I)で、刺刺回数の増加につれ、遅延反応（蚊刺 24 時間後をピークとする硬結・紅斑）のみ(type II)、即時反応（蚊刺 30 分後をピークとする膨疹・紅斑）も生じる(type III)、即時反応のみ(type IV)、無反応(type V)と変化する。我々は 162 名の被験者を年齢群に分け、*Aedes albopictus* に刺された反応が年齢群により変化することを過去に報告した。

蚊刺反応が type II だった者 1 名（1 歳：当時の年齢）と type III だった者 4 名（4 歳 2 名、5 歳 1 名、6 歳 1 名）に 10 年後に *Aedes albopictus* を刺させ、蚊刺反応の変化を観察した。

結果は全員 type は変化しなかったが、遅延反応は減弱した。type III の 4 名中 3 名は即時反応も減弱し、1 名はわずかに増強した。